

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通統計室  
平成24年7月5日(木)公表

# トラック輸送情報

平成24年4月分

平成24年5月分は8月上旬公表予定

\*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室

電話 03-5253-8111      F A X   03-5253-1567

担当 中倉    (課長補佐)   28-721

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成24年4月分）

平成24年7月5日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

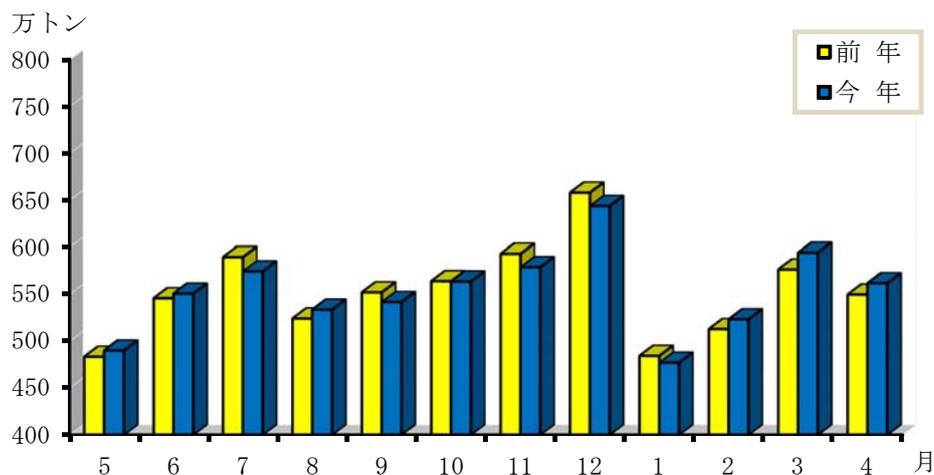
### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象26社の本月の輸送量は、5,621,263トンで、前月と比べ総輸送量が約324千トン減少したため、前月比94.6%（季節調整済み100.6%）となり、前年同月との比較では、約121千トン増加したため、前年同月比102.2%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は23.4日で、前月と比べ1.7日減少し、前年同月との比較では、0.7日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、240,225トンで、前月と比べ約3千トン増加したため、前月比101.4%となり、前年同月との比較では、約12千トン増加したため、前年同月比105.3%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



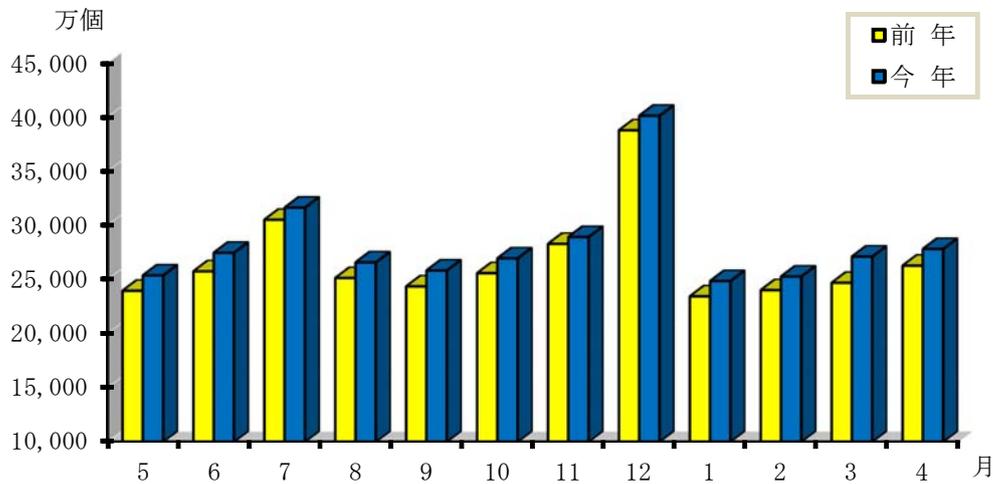
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



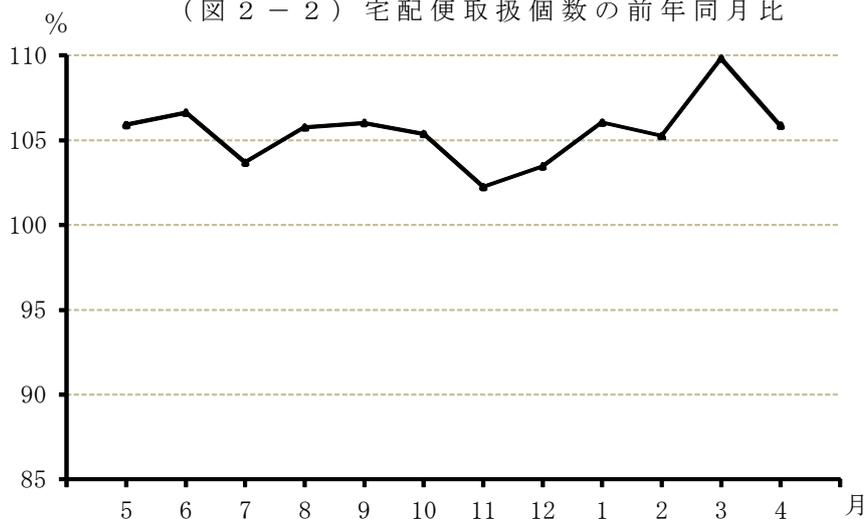
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、278,237 千個で、前月と比べ 約 7,007 千個増加したため、前月比 102.6% (季節調整済み 103.4%) となり、前年同月との比較では、約 15,405 千個増加したため、前年同月比 105.9%の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。減少要因としては、工場・生産地からの貨物減及び倉庫から出る貨物減が「機械」、「日用品」で見られた。「機械」、「日用品」の主な減少地域は東北、関東地方、北陸信越、近畿地方、中国等であった。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物増等が「機械」で見られた。一方、この季節に定期的に配布されていた印刷物の配布が縮小されたことにより「日用品」が、デパート・スーパーからの貨物減等が「その他(百貨店配送品)」で見られた。「日用品」の主な減少地域は関東、九州等で、「その他(百貨店配送品)」の主な減少地域は神奈川、関東、大阪、中国等であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増	変 ら ず	減 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		1	13	3	1		8	
	金属製品			13	8		建設・建築用金属製品	東京、関東、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 8
	機械			12	8	1	電気機械、機械部品、その他の機械	東北、関東地方、北陸信越、愛知、近畿地方、中国	4, 7, 8
	化学工業品	1	1	12	8				4
	繊維工業品		1	15	6		その他の繊維工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	食料工業品		4	11	5			北陸信越、福岡	4
	日用品		1	8	12	1	書籍・印刷物、その他の日用品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州、全国	4, 5, 7, 8
	その他	1	1	10	4	5	宅配便、その他(百貨店配送品)	関東、全国	2, 5, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	12	4				4
	金属製品		3	15	3		建設・建築用金属製品		4
	機械	4	4	9	4		機械部品		4
	化学工業品	1	3	11	7			東京、関東、大阪	7
	繊維工業品		2	15	5		その他の繊維工業品	東京、中部、中国	4
	食料工業品		2	14	4		製造食品	東京、関東	7
	日用品		3	13	5	1	書籍・印刷物	関東、九州	8, 9
	その他	1	3	10	4	3	その他(百貨店配送品)	神奈川、関東、大阪、中国、全国	2, 4

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 819 社／調査対象事業者数 1,066 社）の輸送量は、前月比 92.1%、前年同月比 101.8%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.8 %	95.0 %	131.4 %	100.6 %	99.4 %	114.3 %	94.4 %	93.7 %	100.1 %	100.6 %	100.1 %	
前 月 比	92.1 %	93.2 %	91.4 %	94.4 %	90.2 %	94.3 %	94.1 %	86.1 %	94.4 %	93.1 %	92.8 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比93.2%、対前年同月比95.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「取り合せ品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物増により「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「金属製品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要減等により「その他の石油製品」、「廃棄物」が、工場・生産地からの貨物減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比91.4%、対前年同月比131.4%であった。品目別では、景気の影響等により「機械」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、景気の影響等により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比94.4%、対前年同月比100.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比90.2%、対前年同月比99.4%であった。品目別では、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、景気の影響等により「非鉄金属」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比94.3%、対前年同月比114.3%であった。品目別では、建設関連の需要減等により「機械」が、季節的需要減等により「その他の化学工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比94.1%、対前年同月比94.4%であった。品目別では、デパート・スーパーからの貨物増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比86.1%、対前年同月比93.7%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」が、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「その他の石油製品」、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要減等により「機械」、「セメント」、「その他の窯業品」、「廃棄物」、「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比94.4%、対前年同月比100.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の農産品」、「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増等により「鉄鋼」、「非鉄金属」、「工業用非金属鉱物」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したとする事業者があった。一方、季節的需要減等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比93.1%、対前年同月比100.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の農産品」が、工場・生産地からの貨物増等により「畜産品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により「砂利・砂・石材」、「取り合わせ品」が、建設関連の需要減等により「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」、「セメント」、「その他の窯業品」が、また、景気の影響等により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比92.8%、対前年同月比100.1%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「非鉄金属」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入貨物の減により「木材」、「金属くず」が、建設関連の需要減により「金属製品」が、商社・問屋からの貨物減により「紙・パルプ」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	2	2					1	1	1		7
	減		1	1								2
2. 野菜・果物	増	1					1		8	9		19
	減		6					1	3	1		11
3. その他の農産品	増					1		2	3	4		10
	減								1			1
4. 畜産品	増				1					3		4
	減									1		1
5. 水産品	増	1					1	1		1		4
	減		2					2		1		5
6. 木材	増	1	1						1	1		4
	減	2	1		1			3		2	1	10
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1										1
	減	1						1		1		3
9. 金属鉱物	増							1		1		2
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	2						3	2	2		9
	減	10	3			2				6		21
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1					1	4			7
	減		4					2	2	1	1	10
12. 鉄鋼	増	1	2					2	4			9
	減			1	1			2		2		6
13. 非鉄金属	増								2		1	3
	減		1	1	2			1				5
14. 金属製品	増		1				2		1	1		5
	減	2	1	1	1	1	3	2		7	1	19
15. 機械	増		2		1	1	1	1	1		1	8
	減			1	2	3	3	6	1	6		22
16. セメント	増	2	1						2	1		6
	減	2						5		6		13
17. その他の窯業品	増		1		1		1	1				4
	減				2			3		3		8

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増								2			2
	減	1		1	1			1	1	1		6
19.その他の石油製品	増	1							2			3
	減	6	2		4	1		5	1	1		20
20.コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減											
21.化 学 薬 品	増								1			1
	減	1			2		1	1	1	1		7
22.化 学 肥 料	増	1	2		1				1	1		6
	減		1				1	1				3
23.その他の化学工業品	増							3	1			4
	減		1			2		2		1		6
24.紙 ・ パ ル プ	増		1	2					3			6
	減	1	1		2	1	3	2	1		1	12
25.織 維 工 業 品	増											
	減				1							1
26.食 料 工 業 品	増	1	4	1	4		4	5	3	6		28
	減	3	2		1	1	1	2		3		13
27.日 用 品	増	1	1		2			1	2			7
	減	2		1			3	4		5		15
28.その他の製造工業品	増		2							1	1	4
	減		1					3		2		6
29.金 属 く ず	増											
	減										1	1
30.その他のくずもの	増						1					1
	減							1				1
31.動植物性飼・肥料	増	2	1					2		2		7
	減	3	1	2	1			1	2	3		13
32.廃 棄 物	増	1	1					1				3
	減	4						4			1	9
33.輸 送 用 容 器	増		1									1
	減				1			1	1	1		4
34.取 り 合 せ 品	増	4	2				1	2		1	1	11
	減		1		2			8	1	5	2	19
35.そ の 他	増				4		4					8
	減	1	1	3	5	1	4	6	3	4		28